



山谷ひろこ スマイル通信

討議資料

2025.9 月発行 vol.9

事務所連絡先 大鰐町大字島田字後ヶ沢48 TEL・FAX 0172-48-5992

届かぬ声を拾いたい！

一ひとりひとりが主役の町づくりを目指して
あなたの声を町政に届けますー

大鰐町議会 令和7年6月一般質問において

10年後を見据えた町政運営について



大鰐町の高齢化は44.7%。人口（戦略人口）は10年後の35年は5,273人。そして2020年から50年までの30年間で20～39歳の女性人口が50%以下に減少する自治体、消滅可能性自治体は青森県のほとんどだといわれています。こうしたなかで将来を見据えて町が未来をどう作っていくのか。

- ①地域活力活性化について
 - ・定住、Uターン促進の取り組みとして、デジタル技術やリモートワーク活用をどのように考えるのか。
 - ・地域資源を活かした農業、観光、温泉、観光への取り組みをどのように考えるのか。
- ②教育、子育て環境の整備について
 - ・小中一貫校、図書館、児童館、役場庁舎など、複合施設としての在り方についてどのように考えるのか。
- ③地域インフラ、暮らしの基盤について
 - ・高齢者福祉、交通手段（買い物や病院）として、デマンドバスをどのように活用していくのか。
 - ・増え続ける高齢者世帯の除雪支援をどのように強化していくのか。町の見解を問う。

A. ①リモートワークやワーケーションなど多様な働き方に対応した環境整備を推進していく。観光に関しては民間事業者が主体である。行政としては民間事業者の支援や環境整備に取り組んでいく。

②今年度策定の公共施設等総合計画において 統廃合の方向性について検討したい。小中一貫校を一本化することは選択肢の一つであると考えている。どのような形が最善かを一番考えていく。

③デマンドバスに関しては利便性の向上に努めている。高齢者の除雪支援については地域除雪事業や国の交付金を活用した除雪事業により 地域住民で支えながら雪対策を行っている。共助の取り組みを増やしていく。

要望・意見

未来に向けた明確な方向性やビジョンが感じられない。守るべきもの、変えるべきもの、育てていくものを見極めながら、町民と共に将来を描いていく町政運営を期待している。



Q 4期にわたる町政への総括と、残された1年で取り組みたいことは何か。また現時点での五期目町長選についての考えを伺う

A. 最優先課題として取り組んできたのが財政の健全化と持続可能な財政運営の確立です。また令和元年には観光拠点になる大湯会館をオープンした。また学校施設の空調設備の完備、医療費無償化など教育子育て環境の充実に取り組んだ。医療面では入院機能を要した診療所を開所し、町民の皆様の生活の質の向上を目指した。五期目についてはまだ考えていない。

要望・意見

来年度の予算や重要施策など、町長が継続する意思があるかどうかによって大きく判断がわかれる場面が出てくる。町政のかじ取りに係わるので、五期目への意思を早い段階で表明してほしい。



大鰐町議会議員

活動内容

子どもからお年寄りまで
くらしの声を町政に届けます

子育て・教育の充実

食と健康を預かる
ベースとなるのが家庭
あたらしい世代が
健やかに育める地域に

地域活性化の支援

農業、産業、観光など
これからの見据えた
仕組みづくりを

婚活事業の推進

大鰐町での新たな出会いや
夫婦の新生活に向けた
支援の確立へ

その他の活動内容

- ・農業後継者の支援
- ・食育の強化
- ・高齢者医療、介護の充実
- ・女性活躍の支援
- ・男女共同参画の基盤整備
- ・リカレント教育の支援
- ・ヘルスツーリズムの推進

大鰐町議会 令和7年9月一般質問において

追跡質問



病児・病後児保育の可能性について
進捗状況を伺う



受け入れ業者で前向きなところが一カ所あった。
引き続き実現するよう検討していく。

五歳児検診の導入について



近年、発達障害や育ちのつまずきが就学前に顕在化するケースが増えています。そうした中で就学前の最後の検診として五歳児検診の重要性が注目されています。そこで伺います。

- ①五歳児検診の必要性についてどのように考えているか。
- ②令和六年度から国庫補助金制度が五歳児検診の対象になっているが、これを利用して導入を進める意向があるか。
- ③五歳児検診を導入するにあたりどのような課題があるのか。町の見解を問う。



実施の必要性は認識している。課題としては幼児の保健医療に習熟した医師や心理士などの確保が難しい状況がある。また必要な支援に繋がれるようフォローアップ体制を整備することも必要である。これらの状況から難しい状態である。

要望・意見

安心して子どもを育てられる町として五歳児検診の導入は必要ですので、強力なパイプを作っていただいて予算化して下さるようお願いしたい。

猛暑時の避難対策と防災意識の向上について



先日のカムチャッカ半島での大きな地震の際、猛暑の中での避難を余儀なくされた場合の対応について

- ①暑熱環境対策について話し合いは持たれたのか。
- ②各地域にある避難所にエアコンや扇風機・冷却グッズなどの配備状況。電源確保や発電機の準備などは整っているのか。
- ③猛暑や熱中症のリスクを加味した行動マニュアルは整備されているのか。
- ④避難要支援者名簿はどのように平常時から管理しているのか。また災害時にどのように安否確認や避難支援につなげるのか。町の見解を問う。



①各施設の利用状況や避難行動要支援者への周知方法、住民への広報について情報共有・協議を行っている。
②指定避難所二十四カ所のうち二十三カ所にエアコンが設置されている。残る一カ所については町が所有する移動式エアコンや扇風機を搬入することになっている。停電時の対策として、地区の避難所に発電機を配備し災害時の電力供給体制の確保に備えている。冷却グッズについては配備していないが保管場所や管理方法に課題があるので十分考慮し避難者の安全安心を最優先に進めていく。
③現時点では町独自のマニュアルは作成していないが今後実効性のある避難所運営マニュアルを作成する予定である。
④平常時は情報開示に関して同意を得た方の情報を、支援に関わる団体に提供し声掛けなどの見守りをお願いすることとなっている。現在名簿を整理している段階ですので整い次第関係団体に提供したい。災害時は情報開示に同意していない方の情報も関係団体に提供し要支援者宅の訪問に協力いただいて安否確認と避難支援を行う予定となっている。

要望・意見

町民の命を守るために行政と地域が力を合わせる仕組みづくりを引き続き進めていただきたい。

保育料の完全無償化について



0歳から2歳までの保育料を所得制限に関係なく無償化してほしい。

- ①所得制限に関係なく無償化に着手する考えはあるか。
- ②その際の町の負担は実績額換算はどれくらいなのか。町の見解を問う。



0歳から2歳児は保育中心であり教育的観点よりも家庭の就労支援が目的となるため支援の範囲が限定的となっている。限られた財源の中で保護者の課税状況等により保育料を設定しており、本町では国基準額の五割から九割程度に抑えている。そのほかにも国及び県の多子軽減事業により保育料の軽減措置が図られている。令和六年度の保育給付の実績額は二億五千四百五十万円ほどである。0歳から2歳児までを無償化した場合は町の負担額は令和六年度実績換算額は一千百三十九万円ほどの追加となる。副食費の無償化も行っており、現在の財政状況から勘案すると難しいと判断している。

要望・意見

子育て支援は未来への投資です。財源計画を早期に行っていただき独自に予算化していただきたい。町の七割の方が教育費や保育料などの子育てに要する経済的支援を望んでいる。短期的な支出を惜しむのではなく未来への投資という観点を持つてほしい。

SNSによる活動の様子は下記からご覧いただけます



公式HP
インタビュー動画
活動通信公開中

HP



Instagram



lit.link



X



Facebook

